

は じ め に

本県では、生涯にわたる健康の保持増進に寄与することを目的に、平成25年12月に「鳥取県歯と口腔の健康づくり推進条例」を制定するとともに、平成30年には、「鳥取県歯科保健推進計画～歯と口腔の健康づくりとっとりプラン～」を策定し、「80歳になっても20歯以上の歯を保ち、生涯自分の歯でおいしく食べる」ことを目指して、幼児期から高齢期までの各年齢層におけるむし歯や歯周病の予防、口腔機能の獲得・維持・向上など、県民の生涯にわたる健康増進に取り組んできました。

取組を進めるにあたっての基礎資料とするため、本県では5年に1回、県民歯科疾患実態調査を実施しており、本来は令和3年度に実施する予定であったところ、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い令和4年度の実施になりましたが、この度無事に調査結果をとりまとめることができました。

さて、今回の調査結果の概要ですが、平均寿命が延びる中、歯の数は80歳代で17.8本と前回（13.5本）より4.3本増え、プランの目指す80歳で20本に近づきました。むし歯罹患率は20歳代において前回（89.1%）より9.6%減少し、今回（79.5%）と、大きく減少しました。

一方、令和2年における本県の平均寿命が、男性で81.34歳（前回平成28年80.17歳）、女性で87.91歳（同87.27歳）と延びていることもあり、80歳以上の対象者の方が、前回（6年前）より1.5倍、前々回（12年前）より2.5倍と増えていることもあり、寿命が延び歯を有する人が増えました。そのため、高齢者の方のむし歯罹患率が高く、40歳代からはどの年代もむし歯を有する人が増えました。歯肉炎や歯周炎もどの年代も増加しました。歯周病と全身疾患には深い関わりがあり、口腔内の健康を保ちながら全身の健康に気をつけることが重要になります。

この調査結果をもとに、今後も具体的な目標を設定し、関係機関等の皆様と多様な連携・協働をしながら、県民の皆様の健康を保つため目標達成に向けた取組を進め、さらなる歯科保健事業の施策展開を推進していく所存でございます。

終わりに、今回の調査に御協力いただきました県民の皆様及び関係機関の方々をはじめ、調査の実施、分析等に多大な御協力をいただきました一般社団法人鳥取県歯科医師会の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後さらなる御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年3月

鳥取県福祉保健部

部 長 中 西 眞 治